

今月号の主な内容は、

○工事の進捗状況等
・3、4号シルトフェンス設置

○訓練
・海水取水ポンプ(RCWS)モータ取替訓練
・直流電源車ケーブル接続訓練

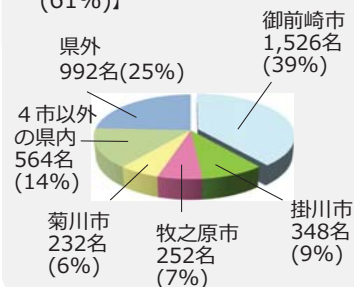
○静岡県と御前崎市による点検および確認
です！



浜岡原子力発電所従事者数 (7月1日現在)

3,914名 (安全性向上対策工事従事者以外を含む)

【御前崎市・牧之原市・掛川市・菊川市在住：2,358名 (61%)】



【工事の進捗状況等】

○3、4号 可搬型海洋拡散抑制設備 (シルトフェンス) 設置

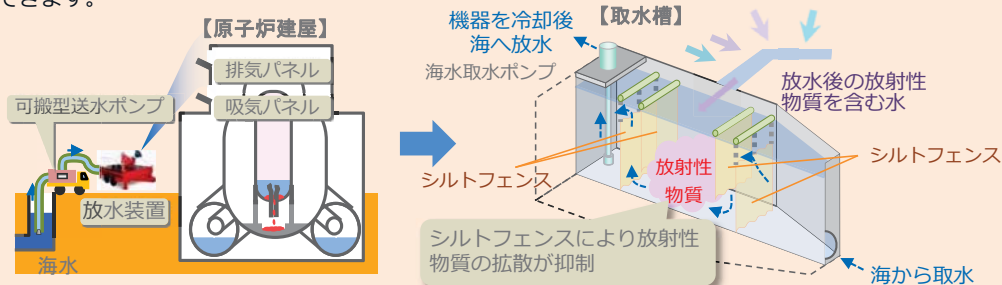
7月29日、放射性物質の拡散抑制設備としてのシルトフェンスについて、当社社員がメーカーより設置についての説明を受けました。

今後、当社社員のみで設置することができるよう、訓練を重ねてまいります。

シルトフェンスと設置するとどうなるの？

シルトフェンスは取水槽の中の水の流れを遅くすることにより、汚濁水を滞留させて、汚濁粒子の沈降を促進するとともに、汚濁粒子によるフェンス背後への影響範囲を小さくすることが可能です。

万が一、放射性物質を含んだ水蒸気を放出する場合は、放水砲により地表面に落とします。落ちた放射性物質は、敷地内の砂や泥に吸着されながら、水とともに敷地の低い取水槽に流れ落ちますが、取水槽内にシルトフェンスを設置し、砂や泥を沈殿させることにより、海洋への拡散を抑制することができます。



当日の様子



準備状況



シルトフェンスを設置する様子



設置完了

【訓練】

○海水取水ポンプ(RCWS)モータ取替訓練

7月8日、9日、22日、23日に原子炉を除熱するために必要な海水取水ポンプが津波等により使えなくなったことを想定し、ポンプに予備のモータを付け替える訓練を実施しました。

【海水取水ポンプ(常設)】



モーター



①予備のモータをトラックにて運搬後、クレーンに繋ぐ様子



②モータをクレーンで吊り上げる様子



③モータを所定の場所に配置する様子

クレーンは社員が運転・操作しています。



○直流電源車 ケーブル接続訓練

7月27日、28日に原子炉を冷却する設備や計測設備の電源として必要な直流電源車の操作訓練を実施しました。



①直流電源車を所定の場所へ移動させる様子(社員が運転しています。)



②ケーブルを接続している様子



③ケーブルを接続した状態



④直流電源装置を起動している様子

【静岡県と御前崎市による点検および確認】

7月27日、当社が実施している津波対策工事ほか追加工事について、御前崎市の立ち会いの下、静岡県による点検を受けました。42回目となる今回は、建屋外壁扉への自動閉止装置の設置工事、海水熱交換器建屋構造強化工事および防波壁設置工事について点検を受けました。

静岡県から、「中部電力の計画どおりおこなわれたことを確認しました。」「防波壁工事の点検結果について、点検基準を満足していることを確認しました。」などの講評をいただきました。

御前崎市から、「対策工事が計画どおりに進められていることを確認しました。今後、猛暑日や台風の襲来が予想されるため、作業員の健康管理や安全管理に留意してもらいたい。」との講評をいただきました。



建屋外壁扉への自動閉止装置の設置工事点検の様子



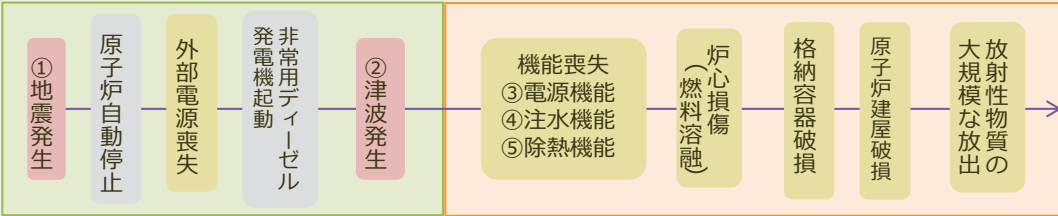
海水熱交換器建屋構造強化工事点検の様子

発電所の更なる安全性向上への取り組み【概要】

設備

様々な事象を想定し、設備を揃えています。

例えば、福島第一原子力発電所の事故の場合は以下のように事象が進展しました。



浜岡原子力発電所では、原子炉施設の安全性を確保するために必要な「止める」「冷やす」「閉じ込める」機能が一齐に喪失する要因への対策を強化します。

①地震対策



Ⓐ配管サポート工事



Ⓑ排気筒補強工事

②津波対策



Ⓒ防波壁



Ⓓ大物搬入口

他にも、竜巻や火災など様々な事象を想定し、対策を講じています。

万が一にも、原子炉の燃料が溶けるような事故（重大事故）や更に事象が悪化して格納容器や建屋が破損するような事故に至らないよう、原子炉を冷やすための設備やそれらを動かす電源設備を多重化しています。

③電源対策



Ⓔガスタービン発電機



Ⓕ交流電源車

④注水対策

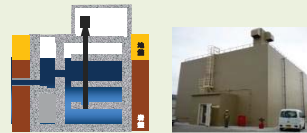


Ⓖ大容量送水システム（ハイドロサブ）

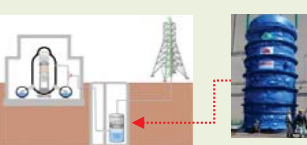


Ⓖ可搬型取水ポンプ車（クローラー型）

⑤除熱対策



Ⓖ緊急時海水取水設備



Ⓖフィルタベント設備

格納容器内を除熱し、炉心損傷、過圧破損を防止する設備。また、フィルタを通すことにより放射性物質の大規模な放出を抑制します。



Ⓖ代替熱交換器車

F G H K

E

B

D

A

C

対応力

様々な事象に対応するため、体制等を強化し、訓練を繰り返し実施しています。

万が一、重大事故に至る恐れがある場合にも重大事故を防止し、重大事故に至った場合も、その影響を緩和するため、「防災体制の強化」、「資機材の拡充」、「対応手順の追加・改善」など、現場対応力の向上に取り組んでいます。

対策①：防災体制の強化



24時間365日、緊急時の初動対応を専門的に行う組織「緊急時即応班（ERF）」の導入等

対策②：資機材の拡充



衛星電話（NTT不通時用）、放射線測定器の配備等

対策③：対応手順の追加・改善



重大事故等が発生した場合の手順の整備等

徹底した訓練の実施

個別訓練

これらの対策が有効に機能することを確認し、現場の対応力を向上させるための訓練を継続的に実施していきます。



がれき撤去訓練



電源車へのケーブル接続訓練



注水車へのホース接続訓練



当直者訓練



ベント操作訓練

総合訓練

発電所内の災害対策要員600人中約400人が参加。各班に分かれ、事故時の対応手順の確認や他班との連携を確認します。



緊急時対策所・本部席



情報戦略班



地域・広報班（通報訓練）



放射線管理班（スクリーニング訓練）



中央制御室

審査会合

原子力規制委員会による新規制基準適合性確認審査を受けています。（現在3,4号機が申請中ですが、4号機が優先して進められます。）

<4号機の進捗状況>

（平成27年7月31日現在）

項目	地震・津波等に関する事項	プラントに関する事項
回数	計9回 （参考） 関西電力 高浜3,4号機 33回 九州電力 川内1,2号機 20回	計46回 （参考） 関西電力 高浜3,4号機 24回 九州電力 川内1,2号機 37回
	合同で2回実施	